

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870105263
法人名	(有) MMC ドリームサービス
事業所名	MMC グループホーム フレンド
所在地	松山市湯渡町3-18
自己評価作成日	平成22年7月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 22 年 8 月 20 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1ユニット9名なので、利用者・職員の信頼関係が深く、共同空間のなかで安心した生活を提供できている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

5階建ての福祉施設の2階にあり、1階はデイサービスセンター、3～5階は高齢者優良賃貸住宅である。利用者は近隣の方が多く、地域行事にも参加し交流を楽しんでいる。地域のボランティアやサロン利用者がホームを訪れてくれ、1階にあるデイサービス利用者とも交流を楽しんでいる。代表者は殆ど毎日ホームを訪れ職員とコミュニケーションをとり良好な関係を構築している。奥道後からの引き湯で柔らかい肌触りを楽しみながら入浴できる。主治医は月に2回往診に訪れ、定期的な血液検査や胸部レントゲン検査を実施するなど健康管理に十分努めている。医師とは24時間体制で連携を取っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム フレンド

(ユニット名)

記入者(管理者)

氏 名

中本 映司

評価完了日

22 年 7月 31日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 毎月のカンファレンスで、運営方針について話し合っている。「心豊かに、穏やかに、自分らしく、地域と共に」を具体化し、実現に向けて、日々、取り組んでいる。	
			(外部評価) 玄関には利用者が毛筆で書いた理念が掲げられ、全職員は毎月1回開催するミーティングで理念を基にケアの向上につながるよう検討し実践するよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域行事に積極的に参加していき、職員・利用者の顔を覚えていただけるよう努めている。また、運営推進会議を通して地域行事を聞き出し参加していくようにしている。町内会にも属し、町内便りを頂いている。	
			(外部評価) 自治会に入会しているため、公民館だよりや年間行事予定表を届けてくれる。地域行事に参加し、地方祭にはおみこしや太鼓が入ってくれる。ボランティアや地域サロンの人たちと折り紙、書道などを楽しみ、一階のデイサービス利用者とも交流も持っている。小学校の社会科学習を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議の中でグループホームの生活はもちろん、認知症についてなど、地域の方に理解していただけるよう議題にして話し合っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 毎月のカンファレンスを通して話し合いを行い、実際に地域行事への参加など改善に取り組んでいる。運営推進会議では取り組んでいる内容を報告し地域の方や家族に意見をもらっている。 (外部評価) 出席者は会議の意義や役割を理解しており、地域住民の協力が得られている。議事録は詳細に記録されており、その記録から活発に意見交換がされていることがうかがえる。	年間6回の開催は業務多忙の中困難ではあるが、事業所の大切な会議であることを再認識し、行事などを活用しながら開催に向けて取り組んで欲しい。また、可能な限り利用者や家族の出席を得て要望や声を聞き取り、より一層のサービス向上に活かしていく取り組みを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議の中で、市の担当者に取り組み等の話をしている。民生委員とも密に連絡を取り地域行事に参加している。 (外部評価) 市担当者とは連携を取り合い、必要に応じて市を訪ね助言をもらっている。事故報告書の提出の際には市に出向き、事故後の注意点について助言をもらっている。ホーム便りを市や地域包括支援センターに届けて、特に地域包括支援センターとは密に連携・協力体制づくりに努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束は行っていない。玄関を通ればチャイムが鳴るようにセンサーを設置しており、外に出るときはわかるようにしている。 (外部評価) 職員は身体拘束の対象となる行為、言動について勉強会を持ちよく理解できている。玄関にはセンサーが設置されているが、職員はそれに頼らず利用者の外出傾向を把握しており、外出を望む利用者と一緒に散歩に出かけたり、台所仕事を手伝ってもらうなど対応している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 毎月のカンファレンス・毎日の引継ぎを通して職員間で確認を行っている。今後は高齢者虐待防止法について職員全員で学び認識を高めていきたい。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 実際に活用されている人はいないが、協力体制は整っている。制度の理解に関しては職員全員で勉強会を行い理解を深めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約書の中に、利用者の権利・義務について明記している。契約時には口頭でもわかりやすく説明を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関に意見箱を設置しており気軽に意見を表せるようにしている。また、家族の面会時には積極的にコミュニケーションを取り、要望を聞きだせるよう努めている。	
			(外部評価) 毎月の請求書送付の際には、利用者の生活の様子を伝えホーム便りも同封している。家族がホームを訪れた際には、家族からの要望を聞かせてもらうように努めている。ホームには相談箱を備え、ホーム内と第三者機関に相談窓口を設けている。	家族の集まれる機会を設け交流を深めたいと検討を重ねており近い将来、食事会などの行事が開催できるよう具体的な取り組みを期待したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月のカンフェレンスでそれぞれの職員の意見や提案を聞く機会を設けている。 (外部評価) 月に1回、代表者、施設長も参加して開催されるミーティングは話しやすい雰囲気をつくり、職員が気づきを話し合い共有し合えるよう取り組んでいる。施設長は常時事業所内にいるため要望を伝えやすく、代表者も殆ど毎日ホームを訪れており職員とも良好な関係が構築されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 毎月、各職員が自己目標を立て目標の達成に努めている。また、管理者が精勤手当ををつけ運営者の理解・把握に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員研修プログラムを作成しており、重ねて法人内での勉強会、法人外への研修参加も行うようにしている。また、研修で学んだことを職員間で共有できるよう研修報告を行っている。新人職員に関しては毎日の研修記録・現任職員の指導・評価を行っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) グループホーム連絡協議会の研修へ参加し交流を持つようにしている。また他施設の運営推進会議に参加し意見交換を行っている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人自身の希望を尊重したアセスメント・懇談の機会を持つように努めている。また、担当者を中心に本人の思いに気付くよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 初期段階で管理者を中心に家族の希望を聞く機会を 作っている。また、面会意の会話を積極的にとり家族 の希望を職員間で共有している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) 在宅介護・リハビリ等さまざまなサービスを視野に入 れた対応に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 理念を元に、ひとつの家族として日々の生活をともに 送ることを基本とし業務に努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族が面会しやすい環境づくりに努めている。また、 運営推進会議やホーム内の行事にも積極的に参加して いただけるよう声掛け、家族様にもホーム作りに参加 していただけるよう、呼びかけている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) 入所前の、職員全員での会議・体験入所など取り入れ 慎重に初期段階での対応に心がけ馴染みながらの支援 に努めている。外出などでは本人が慣れ親しんだ場所 を目的地に選んだりしている。 (外部評価) 散歩途中で近隣の人から声をかけてくれる。定期的 に来訪する理美容師、ボランティア、地域サロンの人た ち、1階のデイサービス利用者、また毎日清掃に来て くれる人などと馴染みとなり、声を掛け合っている。 石手川公園、道後公園などの馴染みの場所にも出かけ て楽しんでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士でお世話をしたり、協力して作業を行っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約終了後も、電話での連絡・手紙等で継続した関わりを持つようにしている。また、職員が本人に会いに行ったりしている。病院への長期入院の方に対しては、退院時の支援等も行っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の会話の中や、様子などで希望等の把握に努めている。毎日の生活の中で、利用者に対する気付きを大切にしている。	
			(外部評価) 日々の生活の中で、利用者一人ひとりへの声かけに努め、居室でゆったりと話す中で言葉や表情から要望や希望を把握している。また意思疎通の困難な利用者の些細な変化にも注意を払い、思いを感じ取るよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人はもちろん、家族との会話を通して生活歴・暮らし方などの把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ケース記録・生活日誌・夜勤日誌・バイタルチェック表・連絡帳を元に日々の変化が暮らしの中で把握できるよう引継ぎを行っている。また、地域行事を含め利用者が（できること）に参加できるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人とは日々のかかわりの中で、家族とは面会時などで本人と家族の意向を元に、センター方式を利用して介護計画を作成し3ヶ月に1度、モニタリングを行っている。 (外部評価) 各職員が利用者2～3人を担当し生活の様子や健康状態を把握している。また家族の希望を取り入れ、ケアマネが「個別援助計画」を作成し、毎月のミーティング時に全職員で検討を加え作成している。3か月に1回の見直しと状態変化による随時の見直しを行い、家族には了解の署名捺印をもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) ケース記録・生活日誌・夜勤日誌・連絡帳をもとに、日々の変化・状況の把握が職員間で共有できるよう努めている。介護計画の見直しがある場合は、カンファレンスを行い話し合っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人の希望や状態、家族の意向に応じてさまざまな対応が出来るよう努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の公園を散歩したり、近隣の学校内での地域行事に参加している。また、地域の方に来訪していただき、書道等を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人・家族の希望を優先している。ホームの主治医に 変更される方もいれば、今までのかかりつけの病院に 通院される方もいる。 (外部評価) 主治医が月に2回往診に訪れている。定期的な血液検 査と胸部レントゲン検査を実施し、健康管理に努めて いる。緊急連絡簿を作り、24時間体制で医師と連携 を取っている。整形外科、歯科とも連携を取ってい る。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 1階デイサービスの看護職員が、すぐに対応できる体 制が整っている。また、日々の変化等、看護職員に報 告するよう連携が取れている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) ホームの主治医と入院医療機関とで情報交換してい ただいて、適切なケアが提供されており、退院してか らもう安心して過ごせるようにしている。また、月2回 の主治医の往診時に少しの変化でも報告している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 身体的には安定している方が多いが、現段階で家族の 終末期の意向はアンケートで聞き出している。ターミ ナルケアに対しては研修に参加し職員の知識を高める よう努めている。 (外部評価) 事業所の方針として終末期ケアを行うことを家族に説 明し、医師や看護師、職員で連携を密にとりながら、 家族の意思を尊重してケアを実施するよう努めてい る。職員は、終末期に関する学習会や外部の研修に積 極的に参加している。	地域の自主防災組織との連携が十分でない。施設の3 ～5階との協力関係は整っているが、施設外の近隣と の協力体制が十分でない。震災対策の見直しが不十分 である。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時や事故発生時のマニュアルを元にカンファレンスにおいて確認しあっている。また、緊急連絡網の周知徹底をしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練を定期的に行っている。運営推進会議で議題に取り上げ、町内会とも連携が取れるように話している。 (外部評価) 火災通報装置を設置し、緊急連絡簿をスタッフルームに備えている。避難場所を確保しており、訓練記録も残している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 言葉かけや、対応はしっかり出来ている。本人の生活歴などを考え、本人の人格を尊重した対応をカンファレンスで話し合っている。 (外部評価) 個人情報保護の大切さは、ホーム内で学習を行っており十分理解している。ホーム便りの顔写真の利用は利用者、家族の承諾を得ている。人生の先輩として、尊敬の念を持ちプライドを傷つけないよう、優しく声かけを行い心をこめてケアを実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日々の生活の会話を大切にし、本人の言葉・表情で思いや希望に気付くよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ケアプランに沿って、生活のリズムに配慮しながら本人のペースを大切にしている。業務を優先して利用者に対し、スピーチロックになりがちな面がある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人・家族の意向に合わせてその人らしい身だしなみができるようにしている。また、外出時にはお化粧品などをして、おしゃれの楽しみを支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 配膳・盛り付け・食器洗いなど声かけを行いみんなで協力して行っている。 (外部評価) 職員は支援の必要な利用者の傍らに座り、声かけをしながら介助をしている。ある程度調理された食材が配食業者によって届けられ、利用者に盛付や後片付けを無理のない範囲で手伝ってもらっている。また、回転寿司などに外食にも出かけ楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量・水分量は適切に確保できるよう、支援している。本人の好きな食べ物・飲み物を聞き提供できるようにしている。糖尿病をお持ちの方には、食事量を考えたり、定期的に血液検査を行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアは、声かけ・見守り・介助を行い徹底して行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄パターンの把握のため、個別でのカレンダーを作り時間帯等、一人ひとりの利用者に合わせ対応している。 (外部評価) 一人ひとりの排泄チェックが詳細に記録されており、職員は排泄パターンを把握している。さりげなく声かけをしながら、機能に合ったきめ細かな支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 適度な運動や食事・水分の管理で対応している。便秘が続く場合は看護師に相談し、緩下剤服用や浣腸を行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 基本的には時間帯を決めていない。本人の希望にあわせ、入浴していただいている。排泄失敗があった場合は随時行っている。おおむね、週3回を目安にしている。 (外部評価) 少なくとも週に3回は、希望の時間に入浴できるよう支援をしている。奥道後の引き湯であり、温泉の柔らかな肌触りに癒され、全員が入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 夜間、不眠の方には日中体を動かしたり、散歩を行い適度な疲労感を持って頂いている。日中の様子を見て声掛けを行い、休息の時間もとれている。生活習慣通り、睡眠がとれるように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋は個人のファイルに閉じ、職員が何時でも目を通せるようにしている。変更があった場合には連絡帳・申し送りで報告を行い、変化等の様子観察に努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりが役割を持ち、助け合いながら日常生活が送れるように努めている。散歩・外出の機会を設け、楽しみ・気分転換を図るように努めている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 買い物・ドライブなどの外出を行い利用者の希望を取り入れたイベントを企画している。また、担当者が中心となり個別支援にも努めている。 (外部評価) 気候が良い頃には殆ど毎日、車いす利用者も交えて、近隣を散歩している。買い物、菊花展、道後公園や石手川公園にお花見に出かけたり、また蛸鑑賞にも出かけ、地域の夏祭りには盆踊りを楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者一人ひとりに応じて、お小遣いといった形で持っていただいたりしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 手紙を書きたい方には書いて頂いたり、電話の希望があれば職員支援のもと掛けて頂いている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) リビングには、利用者の方の作品・写真等を飾っている。ソファやテーブル等、快適なスペースが確保できるよう配置している。家具は、温もりのある木の家具を使用している。 (外部評価) リビングは広く、水槽には金魚が泳いでおり涼を感じさせてくれる。手作りの大きなカレンダーが掲げられており「時の見当識」に役立っている。折り紙やぬいぐるみが置かれ、利用者が書いた毛筆の書などが飾られている。ソファが置かれ、思いおもいにゆったりと安らぐことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングで利用者同士で話したり、居室で自分の時間を過ごしたりと本人の思い通りに過ごせるよう支援している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 基本的に家具は持ち込みにしており、本人の馴染みの家具を使用して頂いている。自分で作った作品や写真を飾り家庭にいる雰囲気作りに努めている。 (外部評価) 居室の入り口には額に入れた名前をかけている。好みのベッドや懐かしいダンス、いす、愛用の時計、思い出の写真を持ち込んで、自分の部屋らしく、居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) バリアフリーで、リビングには手すりの設置、浴槽には滑り止めマットを使用している。トイレは三箇所あり、お待ちしなくてもいいよう「トイレ」と大きく表示している。	